

リモートデスクトップの PC 起動

遠隔操作で PC 起動

- Wake On LAN (WOL) などの仕組みでリモート起動が可能
- マジックパケット方式はマジックパケットの送信で起動
- Linux や Windows、Mac、仮想 OS などでも WOL をサポート
- ソフトウェア WOL、ハードウェア WOL がある
- ハイブリットシャットダウンからの復帰は不可
- ハードウェア WOL は、スリープ状態、休止状態からの復帰は不可
- BIOS、ネットワークアダプタや、ルータの設定等が必要



リモートワークを行うのに比較的手軽に始められるのが、リモートデスクトップの機能を利用した在宅勤務です。

この機能は、以前はソフトウェアの技術者が、ユーザに対し遠隔地からサポートしたり、教育などの目的で、他の人がユーザの PC をリモート操作できるようヘルプデスクなどでよく使用されました。

今では、新型コロナウイルス感染症が拡大しないよう緊急事態宣言を受けて、短期間で且つ低予算でできるリモートワークとして、多くの企業がテレワーク実施のために活用しています。

セキュリティ対策が施され会社のセキュリティポリシー上問題なければ、リモートデスクトップを使えば、業務用の PC は会社に置いたまま、家にある PC やスマホなどから、会社にある PC を自宅など会社から離れた場所で、外から操作することが可能になります。

これにより、リモートデスクトップは、テレワークが感染症対策目的で在宅勤務の期間が暫定的である会社は、いつ出社してもすぐ使えるように会社にある PC の業務環境を、できるだけそのまま維持しておきたいという都合があり、特に有効です。環境や事前設定が整えば、比較的楽にリモートワークが始められ、物理的な業務 PC の持ち出しがないため、盗難や破損リスクの軽減になります。

この時考慮が必要なのが、基本的に会社にある PC の電源が入っている状態でないと、リモート操作ができないということです。会社の PC を常時 24 時間電源を入れっぱなしでは、防犯やセキュリティ上のリスクもあります。

そして、よく問題になるのが、家で使用している PC の電源を切るつもりで、オペミスで会社にある PC をシャットダウンしてしまい、会社にいる誰かに頼んで手動で PC を起動してもらわないと、次に使用できないケースです。

こうした問題を解決するために、たとえば、Windows 環境の場合、Wake On LAN (WOL) の仕組みを使えば、マジックパケットと呼ばれる信号を送信して家からでも会社の PC を起動させることができます。つまり、この WOL によって、手動で電源ボタンを押すことと同じ操作がネットワークを通じて可能になります。但し、Windows のネットワークアダプタ設定のみならず、BIOS であったり、ルータなど事前に WOL が有効となる設定が必要です。

実際の起動には、マジックパケットを送信するのにスクリプトが必要があったりするので、オープンソフトなどを利用することも可能ですが、ユーザには難しいため、RPA のロボットなどで対応できるようにしておくのが非常に便利です。